☆ 夏の経済教室資料2022年

共通テストの趣旨を活かした「公共」経済の授業

金 子 幹 夫　　（神奈川県立三浦初声高等学校）

０．はじめに

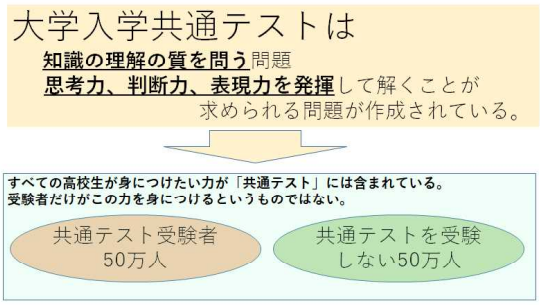
本資料は「夏の経済教室」においてスクリーンに映したスライド一枚一枚が，どのようなメッセージを発信しているのかを簡単にまとめてみたものです。多くの先生方からコメントをいただき、さらに内容を発展させることができましたら幸いです。

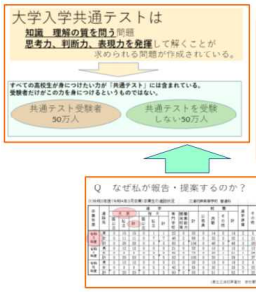
Q　なぜ私が報告・提案するのか？

(1)令和3年度（令和4年3月卒業）卒業生の進路状況　　三浦初声高等学校　普通科

卒業年度	進路先	進学 大学 国公立	進学 大学 私立	進学 大学 計	進学 短大 国公立	進学 短大 私立	進学 短大 計	専門学校	職業能開発校等	計	就職 公務員	就職 民間	就職 その他	就職 計	進学準備	その他	卒業生数
令和3年度	男	0	15	15	0	1	1	22	0	38	0	14	0	14	2	5	59
	女	0	11	11	0	7	7	46	2	66	0	32	0	32	1	21	120
	計	0	26	26	0	8	8	68	2	104	0	46	0	46	3	26	179
令和2年度	男	0	12	12	0	0	0	21	0	33	0	18	0	18	0	13	64
	女	0	8	8	0	5	5	62	0	75	0	20	1	21	1	24	121
	計	0	20	20	0	5	5	83	0	108	0	38	1	39	1	37	185
令和元年度	男	0	12	12	0	0	0	21	0	33	0	19	0	19	2	6	60
	女	0	8	8	0	5	5	42	0	55	0	32	1	33	5	22	115
	計	0	20	20	0	5	5	63	0	88	0	51	1	52	7	28	175

（県立三浦初声高校　学校要覧より）





「共通テスト」が求めている力を「共通テスト」を受験しない生徒にどのように学んでもらうのか？

ということを考えるために私が報告・提案することになった。

はじめに，なぜ私が報告・発表するのか？という説明をします。本日の中心課題は「大学入学共通テスト（以下「共通テスト」と表記します）」です。

「共通テスト」は知識に関する理解を問う問題や、思考力・判断力を発揮して解く問題が出題されています。この力は、全国の高校生が身につけなければならない大切な力です。

ところで、全国には約100万人の高校３年生がいます。このうち「共通テスト」を受験するのは約50万人です。残り半分（50万人）の生徒は受験しません。多くの生徒が「共通テスト」を受ける高校では、全国の高校生が身につけなければならない大切な力をつけるためのトレーニングをしています。しかし、「共通テスト」受験者が少ない高校では「共通テスト」そのものを教材にする機会は少ないのではないでしょうか。

発表者（私）の所属は，スライドにあるように「共通テスト」を受験する生徒は多いとはいえません。この生徒を含む、約50万人の（受験しない）生徒が、「共通テスト」を教材化して学習する道を探ることができないのか？という問いを発表者はもっているのです。「共通テスト」が発信するメッセージを，全国100万人の高校生みんな

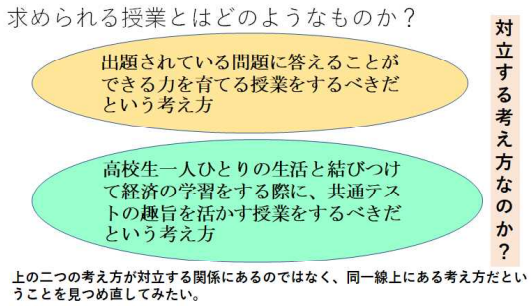
で受け止めることができるのではないか。そのための教材作成について考察を進めていきたいと思います。

１．求められる授業は？

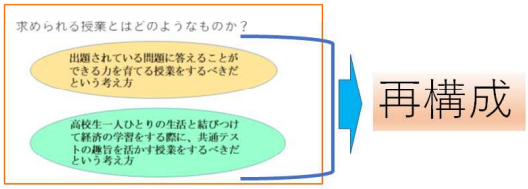
「共通テストの趣旨を活かした『公共』経済の授業」としてどのようなものが求められているのでしょうか。考え方の一つとして、出題されている問題に答えることができる力を育てる授業をするべきだというものがあります。同時に、高校生一人ひとりの生活と結びつけて経済の学習をする際に、共通テストの趣旨を活かす授業をするべきだという考え方もあります。

この二つの考え方は、一見すると対立しているように見えてしまうかもしれません。しかし、本当に対立する考え方なのでしょうか。教師が育てたい生徒像という点で捉え直すと、実はこの二つの考え方が同じ軸の上にのっているのではないかと思うのです。

「共通テスト」受験者が少ない学校でも，「共通テスト」を教材化して授業を行うことで，テストが求めている力を育成することができるのではないかと考えています。



上に書いた、二つの考え方をスライドにしてみました。このスライドは，二つの考え方が対立する関係にあるのではなく、同一線上にある考え方だというメッセージを発信しています。

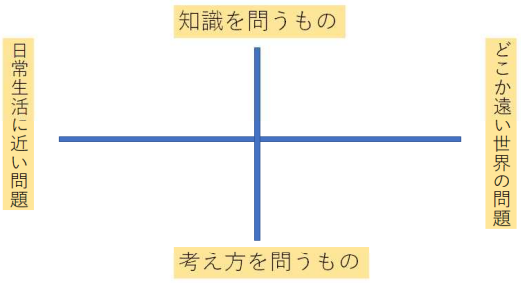


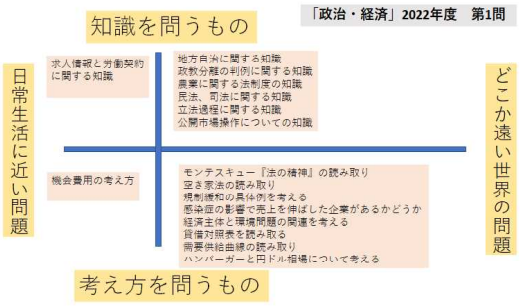
高等学校「公民科」教師が、共通テストの趣旨を活かした経済の授業を構想するにあたって、受験者が多い学校と受験者が少ない学校の授業を再構成することができるのではないかという実践が本発表の主な内容となります。

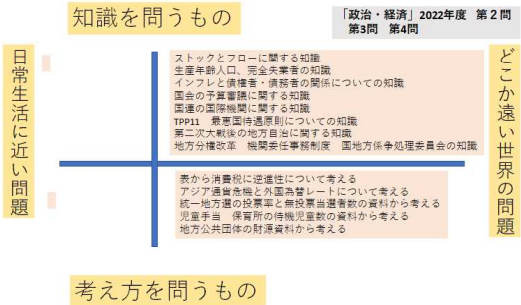
２．授業案を再構成するための共通テスト分析

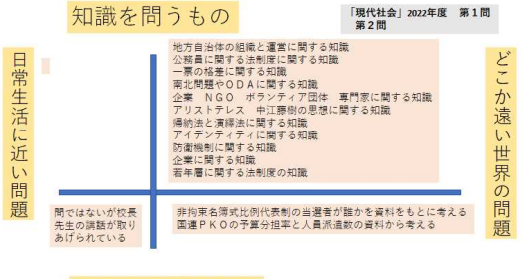
このテーマを深堀するために，始めに取り組む作業は「共通テスト分析」です。

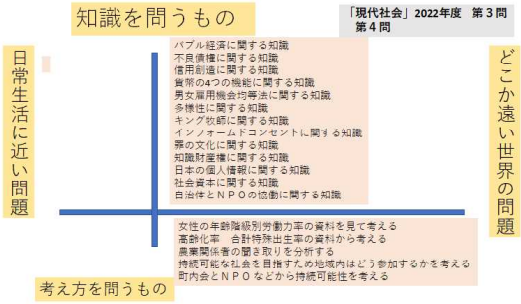
出題傾向を探るというような類いのテスト分析ではありません。テストが発信しているメッセージをどのようにすれば授業に結びつけることができるのかという視点からの分析です。











テスト分析にあたり、分析の軸を設定しました。縦軸は「知識を問う問題」と「考え方を問う問題」を仕分けするために設定したものです。横軸は、生徒（受験者）にとって「どこか遠い世界のこと」を題材にしている問題か，それとも「生徒（受験者）にとって身近な生活」を題材にしている問題かを仕分けするために設定しました。

左に４枚のスライドを示しました。

この４枚のスライドから発信したいメッセージは次の通りです。

第１は，分析をすすめていくうちに縦軸を大きく左側にスライドさせる必要に迫られたということです。私の目の前にいる高校生にとって「どこか遠い世界の問題」からの出題が圧倒的に多いということです。自分の生活経験に結び付けることが難しい知識が出題されているようです。

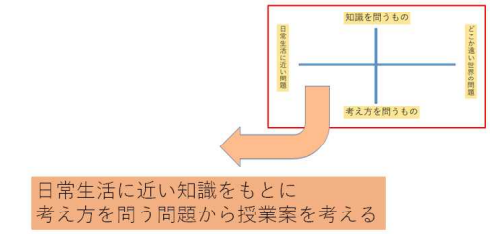
第２は，どちらかというと，やや「知識」を問うものが多く出題されているのではないかということです。

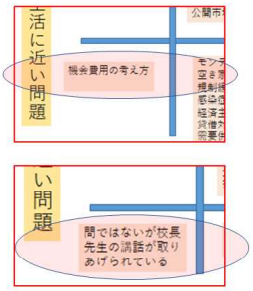
この４枚のスライドで「共通テスト」全ての傾向を表そうとはしていません。出題のおおよその流れを感じ取りたいという目的で分析しています。ここからどうやって教材を作成するのかを考えなくてはいけません。共通テストを受験しない生徒にとっては，「日常生活に近い問題」で「考え方を問う問題」を題材に授業案を構成することが有効だと推測しました。自然に目は第３象限に向かうようになります。

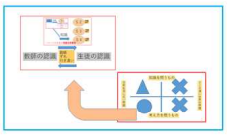
３．次のような授業をつくってみました

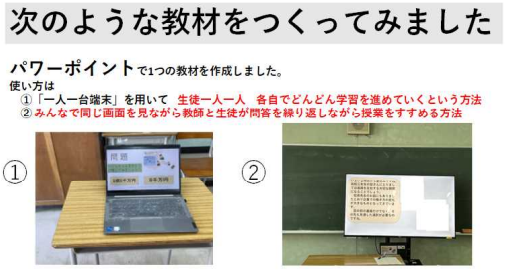
そこで、次のような授業案を作成してみました。

どのような授業案を考えたのか？　というと









共通テストを受験しない生徒にとって、世の中のどのようなところに問題関心があるのかを考えます。

無理なく高校生が関心を示してくれそうな問題は第３象限にあると狙いを定めます。

ところが，今回発表者があぶり出した第３象限の問題は２つしかありませんでした。１つは「機会費用」についての出題です。他の一つは，「校長先生のお話し」という問題です。

ここからどのように教材化できるのかを考えていくことになります。

今回考えた教材案は、パワーポイントを使用するものです。

どうしてパワーポイントを用いたのかという理由について説明します。

第１の理由は，教育界がGIGAスクール構想を背景に、1人1台端末等を活用した学習活動が一層促進されていることがあげられます。これは、ただ単に一人一台端末を持つようすればよいというものではありません。どうして端末を使う必要があるのか？ということを見定めて教材を作成しなければいけないわけです。そのひとつの事例研究になればということでパワーポイントを活用しました（これは後に新たな課題に直面することになります)。

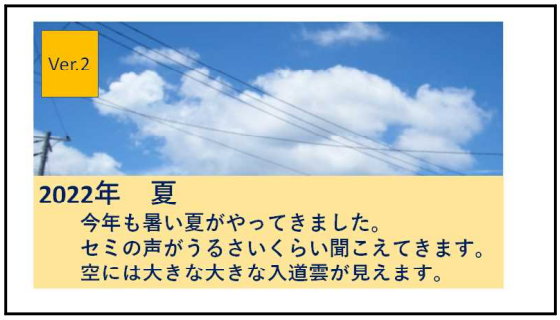
第２の理由は，「考え方」を学習するにあたって，生徒は自分の心との対話することが有効なのではないかと考えたことがあげられます。黒板を見ても生徒は「自分の心と対話」することはできます。ところがパワーポイントは文字だけでなくイラストも示すことができるため，厚みのあるストーリー展開が可能になります。生活経験に

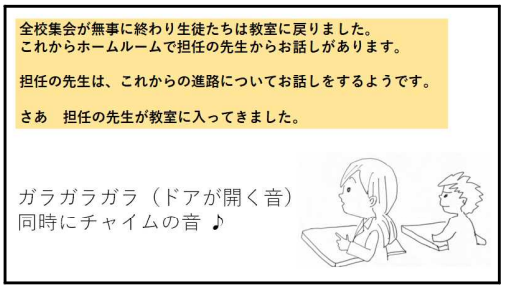
結びつくストーリーを見せることで「考える授業」につながるのではないかと考えました。

それでは、作成した教材を見ていくことにします。

場面設定は、生徒にとって身近な教室ということにしました。夏の実践でしたので，夏休み直前のホームルームを舞台に設定します。

ここから先は，画面にストーリーが描かれていますので，生徒が見る順番どおりに示していくことにします。必要に応じてコメントを記述していきます。





なるほど。いろいろと迷いはあったのですね。その中で最終的に１つを選ぶのは自分自身なのですね。

それはありますよ。自動車メーカーとか、食品メーカーとか･･･とにかく**もの作り**をしたいのです。

ほーっ。将来の夢がいろいろとあるのですね。第４位、第５位、第６位が興味深いです。

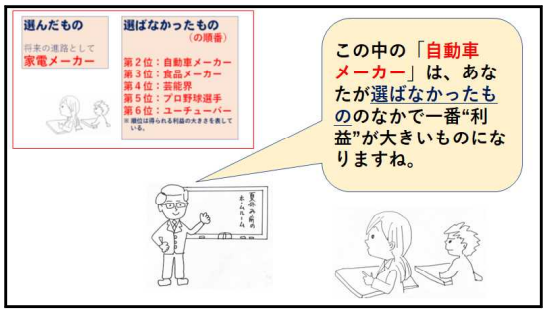
今の希望を順位にすると
第１位：家電メーカー
第２位：自動車メーカー
第３位：食品メーカー
第４位：芸能界
第５位：プロ野球選手
第６位：ユーチューバー
かな･･･？この順番は私がトクする順番です。得られる利益の大きさを表した順番でもあります。

選ぶことができるのは１つです。よって第２位以下は実際には選ばれることはありません。この仕組みはみんな同じですよね。

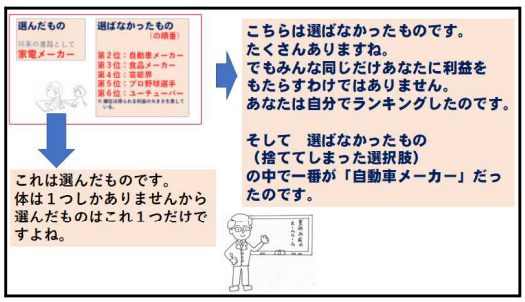
第１位が家電メーカーだから
第２位：自動車メーカー
第３位：食品メーカー
第４位：芸能界
第５位：プロ野球選手
第６位：ユーチューバーは選ばれなかったグループに入ります。つまり･･･

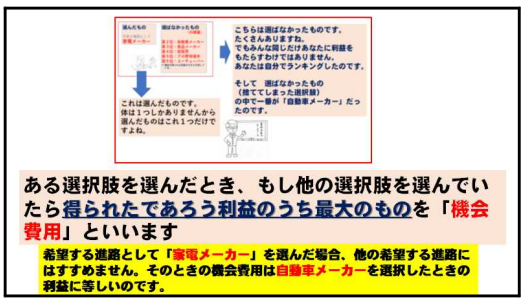
選んだもの
将来の進路として
家電メーカー

選ばなかったもの
（の順番）
第２位：自動車メーカー
第３位：食品メーカー
第４位：芸能界
第５位：プロ野球選手
第６位：ユーチューバー
※ 順位は得られる利益の大きさを表している。



ここは複雑なので
もう一回確認しましょう





機会費用は「きかいひよう」と読みます。
人生で初めて聞くコトバでしょうか？
経済を学習する上でとても役に立つ考え方を示していますので、
みなさんに覚えてもらいたいと思います。　次のボタンを押してください。

ボタン

機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう

機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう
機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう　機会費用　きかいひよう

＜ここまでの概要１＞

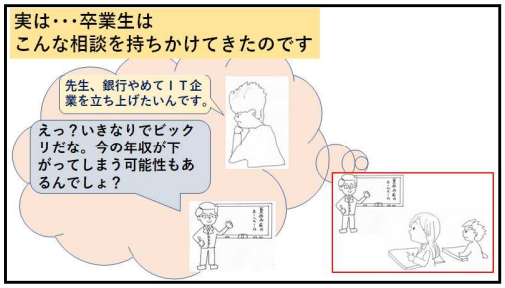
ここまでが前半部分になります。

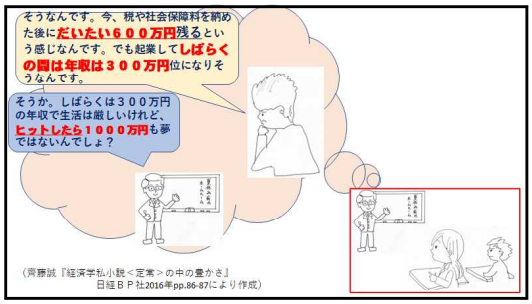
生徒にとって身近なホームルーム教室から始まるストーリーにしました。

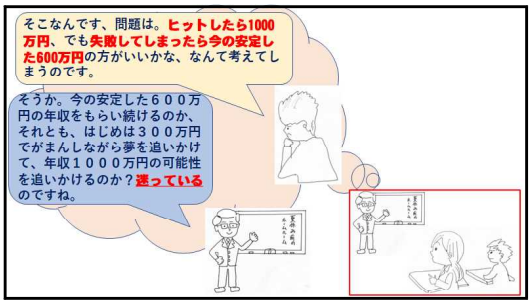
担任の先生が発信するメッセージは高校三年生の進路についてです。

これは生徒の生活に直結した話題です。ここで留意したのは，先生が「しっかり考えないと駄目だよ」という恐怖心をあおる展開にしなかったということです。「そのような考え方では駄目だよ」というメッセージを冒頭に掲げると、その知識は生徒の心には届かないと判断しました（発表者の前にいる生徒に限定した判断です）。

進路活動というのは「選ぶ」ということであり，選ぶことのできる選択肢は体が一つしかないのだから一つだということ、そして一つを選んだのならば、選ぶことのできなかった選択肢が存在するということに気付かせる展開を心がけました。





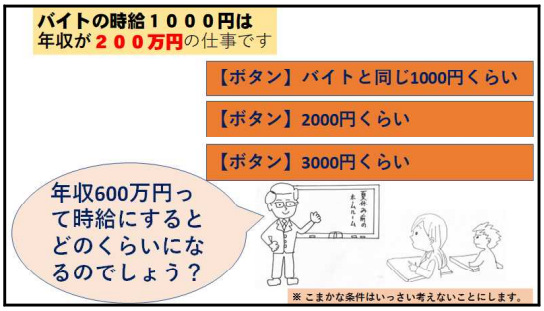


＜ここまでの概要２＞

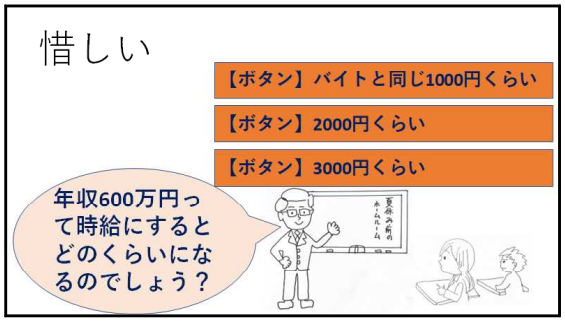
ここまでの部分は，＜ここまでの概要１＞の内容を、一つのエピソードに重ねて描いた部分になります。同じパターンで，次の話題に「考え方」が転移するかどうかがポイントになる部分です。

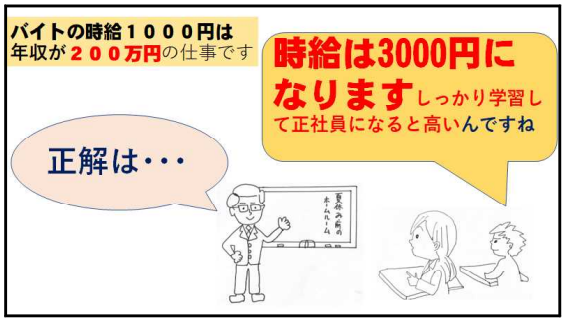
教師の発信したメッセージが、生徒にどのように伝わるのかという問題意識を持った授業展開になります。

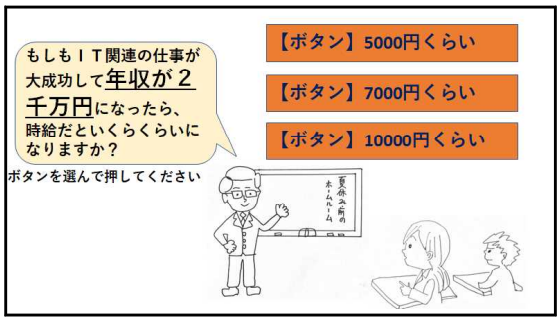
この次に＜概要３＞にうつるのですが，そこでは、教師のここまでのメッセージが生徒の心に届いていないという展開になります。パワーポイントの中の教師は、エピソードを用いてクラスの生徒に「概念」を丁寧に伝えたつもりだったのですが、生徒自身は認識していなかったというストーリーになります。これを見ている実際の（教室にいる）生徒は「理解できない生徒」がどのようにして学習していくのかを見つめることになります。

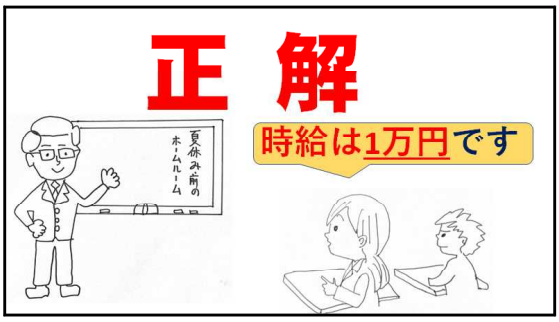


ここで「1000円と2000円」を選択すると、次の左のスライドにうつります。
「3000円」を選ぶと次の右側（つまり正解）のスライドに飛びます。

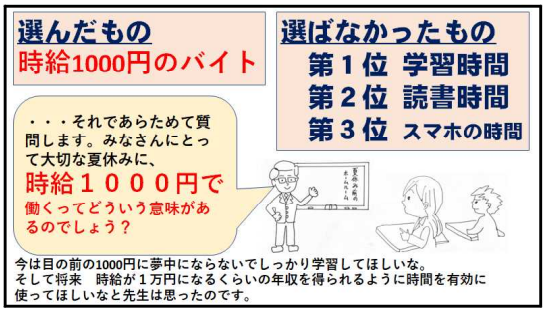


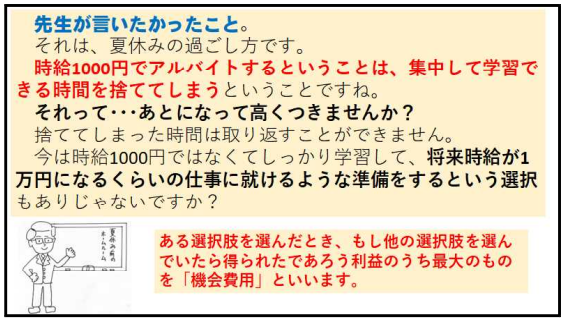


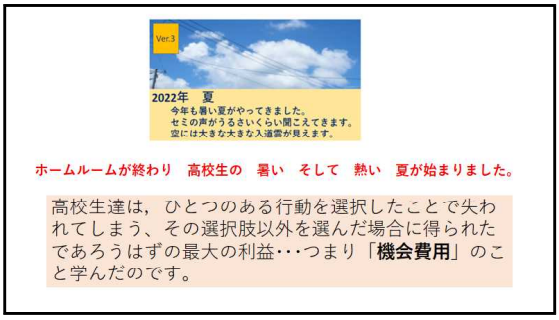




上のスライドで「１万円」のボタンを押すと右のスライドに飛びます。　「5000円と7000円」を選ぶと、再びこの問題のスライドが示されます。







＜ここまでの概要３＞

教師が発信した概念を、授業案どおりに受け止めてくれなかった生徒について見てきました。この生徒が，どのようにして「機会費用」を認識していくのかというところに注目した実践です。

最後の部分で「あなたが最近感じた機会費用」を自由記述で選んでもらうことで，１人ひとりの生徒がどのように「機会費用を」捉えたのか（認識したのか）という糸口を見つけようと考えました。

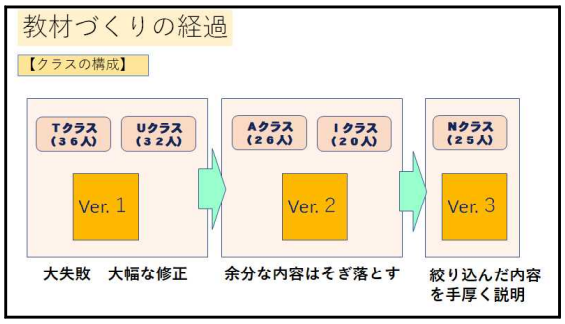
問題

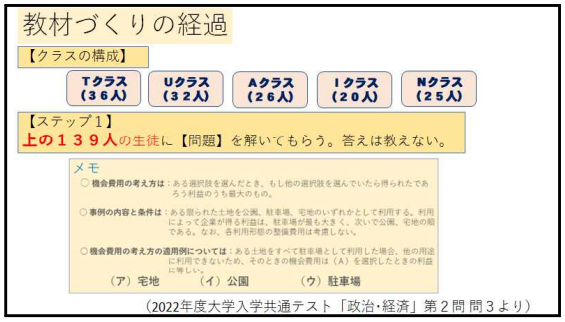
あなたが最近感じた「機会費用」って何ですか？

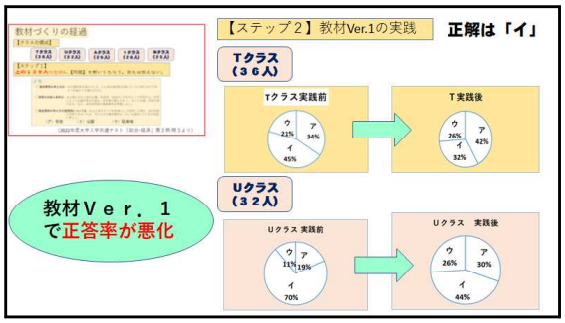
機会費用というのは･･･ある選択肢を選んだとき、もし他の選択肢を選んでいたら得られたであろう利益のうち最大のもの

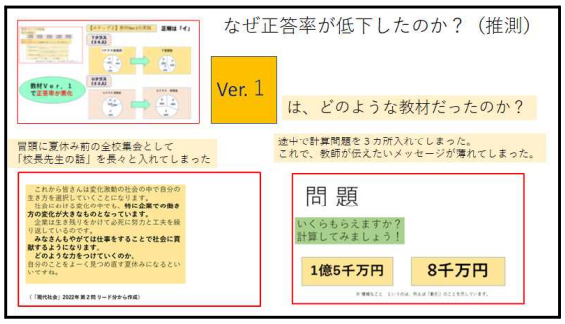
４．教材作成の過程

ここまでは、今回作成した教材の内容説明となります。ここから先は、この教材を作成した経過を説明します。どうしてこのような教材が必要なのか。作成の過程でどのような課題が生じ、それを克服しようとしたのか、という点を明らかにします。









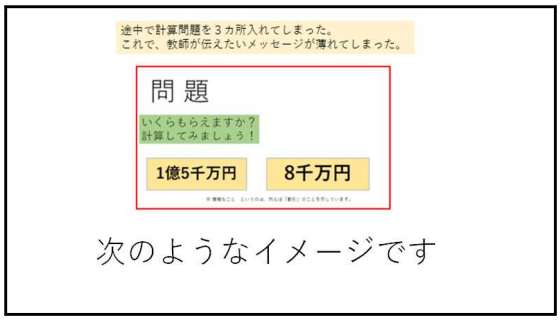
本日紹介した教材は，4クラスでの試行を経てつくられたものです。はじめの２クラス（T、U）で、作成した教材Ver.1を実践しました。そこで課題が見つかったので、Ver.2として再構成したものをA、Ｉの2クラスで実践しました。本日紹介した教材はこのVer.2です。その後、再度問題点がでてきたので微調整のうえVer.3を作成しました。このVer.3は本日の発表の最後に紹介します。

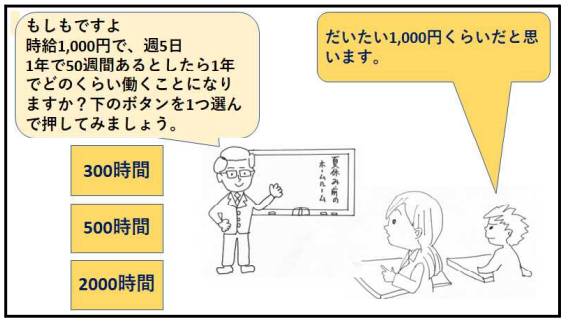
そこで次に，どのようなところを修正してきたのかを示す必要があります。その経過は次の通りです。

はじめに発表者が担当する５クラスの生徒全員に、共通テストの「機会費用」に関する問題を解いてもらいました。2022年の「政治･経済」大問２問３の一部です。これは，問題文を読解できれば正解に近づくことのできる問題です。生徒たちがどのくらい読み取れるのかを事前に調べたのです。解いてもらった後に、正解は知らせませんでした。このあと，この問題について授業で扱うからです。

事前調査が終わった後に、今回作成した教材の原型となるVer.1を実践しました。ストーリーは本日発表したVer.２とほぼ同じです。このVer.1で授業を実施したところ，大きな課題に直面したのです。この授業後に再度，先ほどの問題を解いてもらったら、正答率が低下してしまったのですこれはどういうことなのでしょうか？

作成したVer.1の問題点は次の2点ではないかと推測してます。第１は、問いと直接関係のないテキストデータが多数盛り込まれていたということです。担任と生徒の対話を軸に構成した教材でしたが、実はVer.1





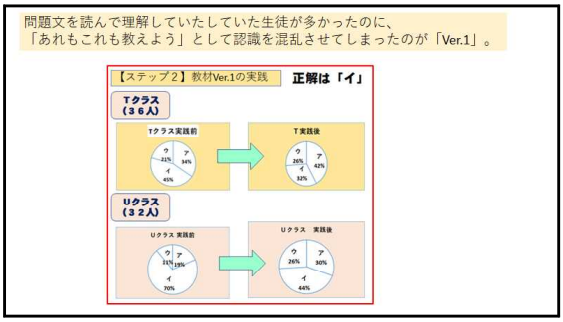
には校長先生の話が盛り込まれていたのです。このお話は問題に直接関係はありません。ストーリーに厚みを持たせようとした結果、本来伝えたいと思っていた知識が薄まってしまったと分析しています。

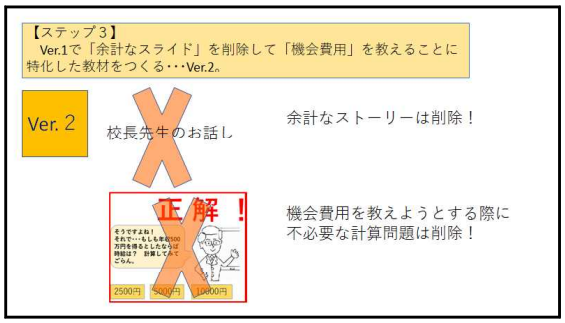
第2の問題点は、教材の中に数カ所の計算問題を入れてしまったことがあげられます。生徒に考えてもらいたい課題を量的に示すことでわかりやすくしようと狙ったものです。ところが数名の生徒が、この計算問題に取りかかる中で本来伝えていと思っていた知識が薄まってしまったのではないかと分析しています。

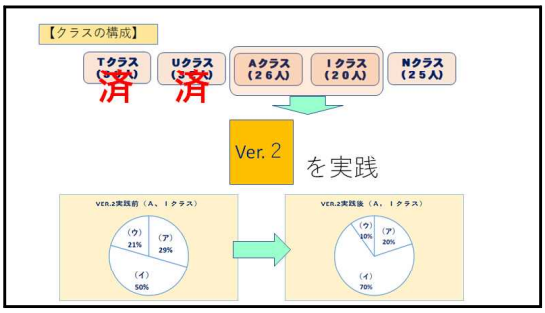
２つの問題点に共通していることとして、あれもこれも教えようとしたことで生徒の認識が混乱してしまったのではないかと発表者は推測しています。

教えることは１つ。その目標に向かって寄り道しないでまっすぐに進むことが有効だと考えてVer. ２を作成しました。

この過程を示したスライドを次にまとめて示すことにします。

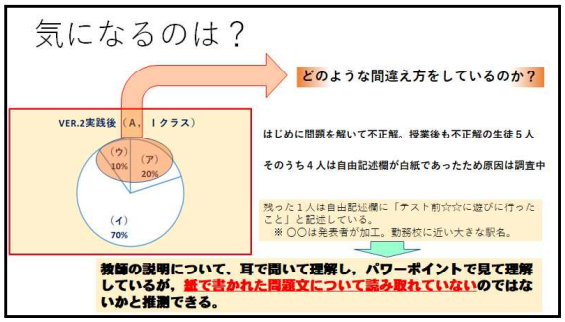


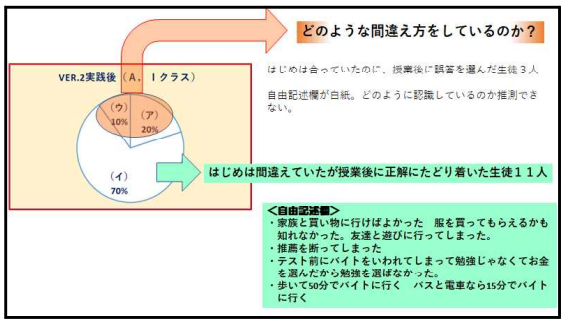


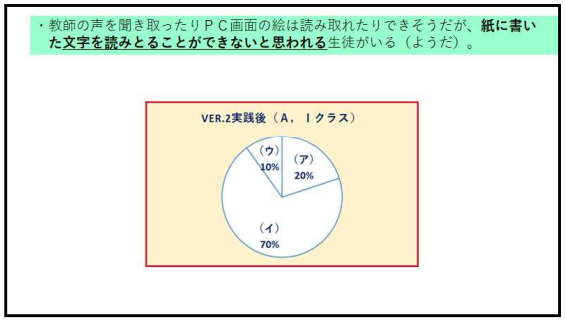


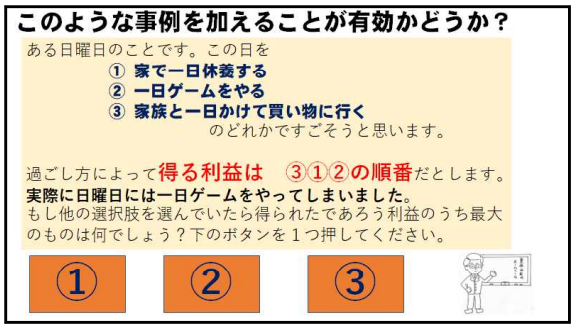
５．気になること

以上が、教材作成の経過です。授業ですから、一年間かけて生徒の変容を追いかけていきます。この実践は，初夏のものですから，生徒の状況をつかみかけてきた頃のものとなるわけです。これから秋にかけてどのように授業を構成するべきかを考えているところですが，ここまでのところで気になる点あがるので、次にあげることにします。









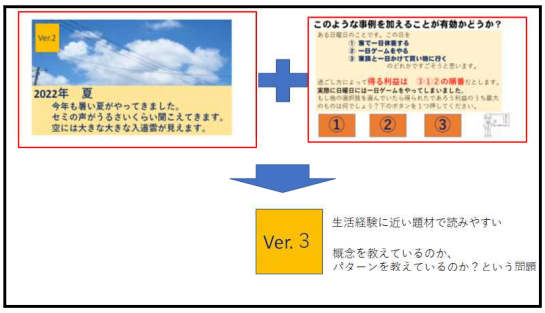
その気になることというのは，ある生徒がVer.2の授業を受ける中で「あなたが最近感じた「機会費用」って何ですか？」という問いにて適切に回答しているのに「共通テスト」の問題で誤答を選んでいることなのです。

この生徒は，本教材で機会費用について学習した後に、自由記述で「テスト前☆☆に遊びに行ったこと」と機会費用について適切に表現しているのです。概念は理解しているのに，問題文のテキストデータを読み解いていないのではないかと推測できるのです。

授業内容は理解できても、テキストで表現されたデータを読解できないのではという疑いです。

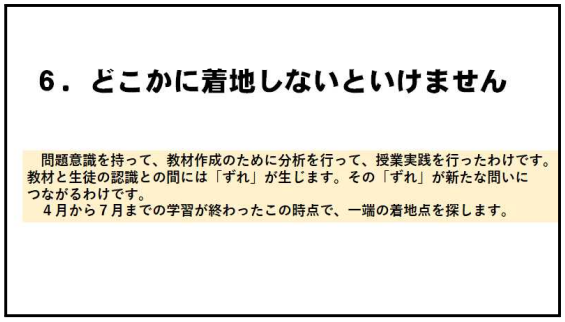
教師の声を聞き取ったりＰＣ画面の絵は読み取れたりできそうですが、紙に書いた文字を読みとることができないと思われる生徒がいるようなのです。

そこで、左の様な事例を加えることが有効かどうかということを考える必要が出てきたのです。内在している問題はいろいろとあります。スライドで示している内容は生活経験に近いので有効なテキストデータだと思います。一方で「共通テスト」問題にほぼ近いパターンで記述されているので，この後に問題を解かせた場合、概念を伝え



たというよりはパズルを教えたということになってしまいそうなのです。

６．おわりに

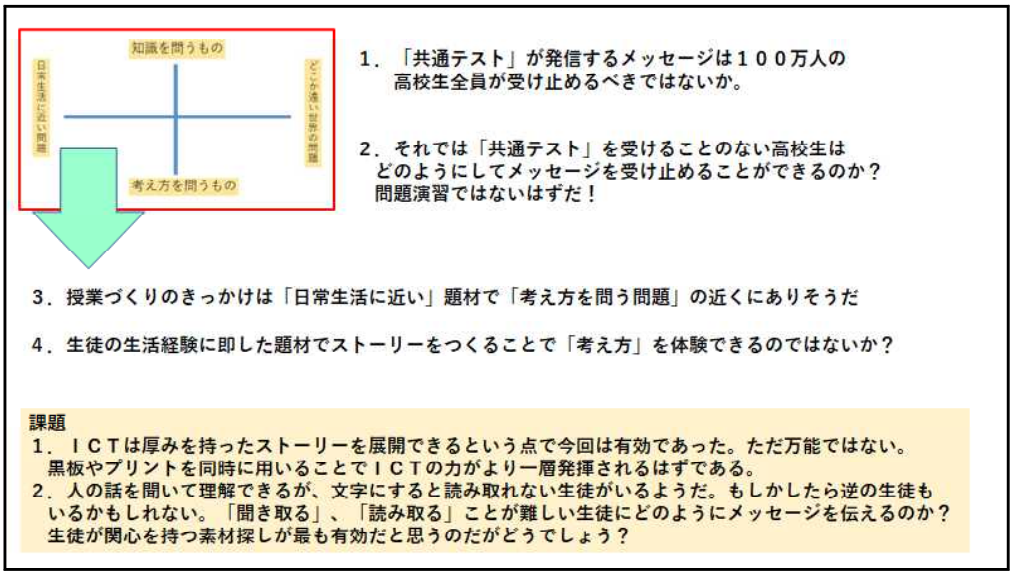


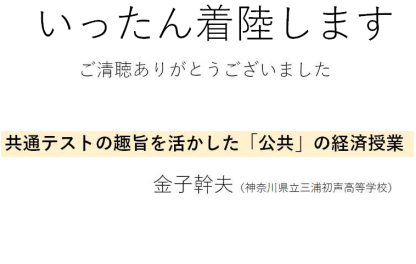
問題意識を持って、教材作成のために分析を行って、授業実践を行ったわけです。

教材と生徒の認識との間には「ずれ」が生じます。その「ずれ」が新たな問いにつながるわけです。

４月から７月までの学習が終わったこの時点で、いったんの着地点を探します。

まとめと問題提起のスライドなので大きく貼り付けました。





神奈川県立三浦初声高等学校
総括教諭　金 子 幹 夫
〒238－0113
神奈川県三浦市初声町入江274－2
TEL 046－889－1771
mail：mikio-kaneko@pen-kanagawa.ed.jp